

hILLSIDE TERRACE pHOTO FAIR (1) 9/4—7—2014

プレスリリース [更新]
2014年9月1日

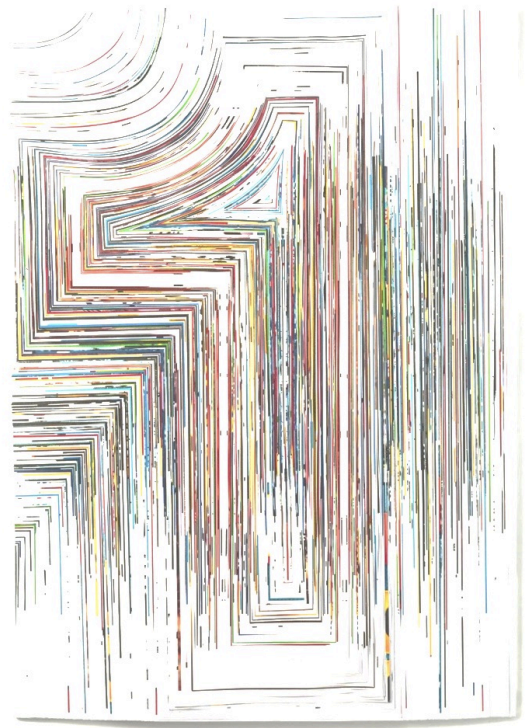


Photo © Nerhol. courtesy of the artist

ステートメント

日本は、世界で活躍するアーティストを多数輩出してきました。そうしたアーティストたちと共に歩んできたギャラリー、書店、そして出版社が自信と確信を持って展示する作品は、力強く輝き、私たちに惹きつけます。アートフォトの世界を牽引する出展者が集うヒルサイドテラス・フォトフェアは、同時期に東京で開催される様々なイベントとも連携し、また来年以降の更なる拡大を企図し、2014年9月、スタートします。是非この機会に、アートフォトの魅力、世界の写真界の動向を知る貴重な時間を体感してください。

HILLSIDE TERRACE Photo Fair : 概要

日時：2014年9月4日（木）～7日（日）11:00 - 19:00（但し最終日は17:00まで）

会場：代官山ヒルサイドフォーラム（〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟）

入場料：一般：1,500円 / 学生：1,000円

主催：一般社団法人日本芸術写真協会

メインスポンサー：株式会社アマナ

協賛：株式会社SPACE TRAVEL / ジャパンクリエイティブ株式会社 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / 写真の町・東川町 / shashasha + lemon books + P.G.I.

協力：代官山 蔦屋書店 / ヒルサイドテラス / gallery ON THE HILL / 高千穂酒造株式会社 /

KYOTOGRAPHIE 国際写真フェスティバル / シェアサイクル COGICOGI

出展ギャラリー：aura gallery Beijing / Taipei | EMON PHOTO GALLERY | G/P gallery | IMA / amanasalto | MEM | MISAKO & ROSEN | Gallery Naruyama | Photo Gallery International | POETIC SCAPE | ShugoArts | Taka Ishii Gallery | Taka Ishii Gallery Photography / Film | The Third Gallery Aya | TOMIO KOYAMA GALLERY | ZEN FOTO GALLERY | Picture Photo Space | YUKA TSURUNO GALLERY | Yumiko Chiba Associates | WAKO WORKS OF ART

出展書店・出版社：AKAACA | IMA | KOMIYAMA SHOTEN | MATCH and Company | NADiff | POST | shashasha | Shelf | SUPER LABO | twelvebooks

関連イベント：トーク・セッション

日本を代表する写真家から近年注目を集める若手写真家をゲストに、キュレーター、研究者、編集者、ギャラリストとのトークによって、1960年代から現在までの日本における写真の変遷を学ぶことのできる9本の連続トークを会期中に開催

開催期間：9月4日（木）～9月6日（土）

時間：各90分

会場：代官山 蔦屋書店、HILLSIDE TERRACE café

参加費：500円～（会場により異なる。一部フリーパス制度あり）

(1) 細江英公 × 川田喜久治 × 丹野章 × 金子隆一（写真史家、東京都写真美術館学芸員、写真集コレクター）

日時：9月4日（木）11:00 - 12:30（13:30 - 15:00 から変更となりました）

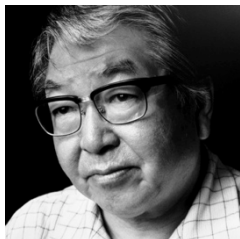
会場：代官山 HILLSIDE TERRACE café

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair

料金：500円（ワンドリンク付き）

要事前申込。トークのタイトル、お名前、参加人数、連絡先（メール、電話番号）を明記の上、event@hillside terracephotofair.com までお申し込みください。

スピーカー・プロフィール：



© Jean-Baptiste Huynh

細江英公（写真家）

1933年山形県生まれ。54年東京写真短期大学（現東京工芸大学）卒業。57年に参加したグループ展「10人の眼」を機に川田喜久治、佐藤明、丹野章、東松照明、奈良原一高と共に写真家集団「VIVO」を立ち上げ、当時主流のリアリズム写真運動に対抗しより私的かつ主観的な写真表現を展開した。50年代より人物の描写に重要な成果を残し、代表作に『おとこと女』（カメラアート社、1961年）、『薔薇刑』（集英社、1963年）、『鎌鼬』（現代思潮社、1969年）他。2003年、英国王立写真協会より創立150周年記念特別勲章を受章。2007年、写真界のアカデミー賞といわれる『ルーシー・アワード』（米）のビジョナリー賞を日本人で初めて受賞。同年文化功労者として顕彰された。東京工芸大学名誉教授、1995年より清里フォトアートミュージアム館長。



川田喜久治（写真家）

1933年茨城県生まれ。55年立教大学経済学部卒業。同年新潮社に入社し「週刊新潮」の創刊時よりグラビア撮影などを担当する。57年、第1回「10人の眼」展（小西六フォトギャラリー）へ出品。59年に新潮社を退職しフリーのカメラマンとなり、初個展「海」（富士フォトサロン）を開催。同年、佐藤明、丹野章、奈良原一高、東松照明、細江英公らと共に「VIVO」を結成する。61年に個展「地図」（富士フォトサロン）を開催。1965年に最高傑作と言われる写真集『地図』（美術出版社、1965年）が出版され、2005年には復刻版が月曜社より出版された。



丹野章（写真家）

1925年年東京都生まれ。49年日本大学卒業。51年からフリー。57年「10人の眼」展に「サーカス」を発表。59年に川田喜久治、佐藤明、細江英公、東松照明、奈良原一高と共に「VIVO」を結成。炭坑、基地、沖縄、40年目の広島など発表。その後壬生狂言、「日本の風土」シリーズ撮影。公募写真展「視点」を創設。日本写真家協会常務理事、文化庁著作権審議会委員、日本リアリズム写真集団理事長などを歴任。現在、（協）日本写真家ユニオン顧問、（社）日本写真家協会名誉会員、日本舞台写真家協会名誉会員。



金子隆一（写真史家、東京都写真美術館学芸員、写真集コレクター）

1948年東京都生まれ。72年立正大学文学部地理学科卒業。60年代末から写真集に興味を持ち、70年代に入り写真集を買うことを自分のミッションとして位置づけ、それによって「写真」を撮ることではなく「写真」に関わる方法を模索する。80年代から写真関係資料のコレクションをベースに、写真史研究を本格的に始める 共編著に『日本写真史の至宝』（国書刊行会、2005年～2007年）、共著に『日本写真集史 1956～1986』（赤々舎、2009年）他多数。武蔵野美術大学非常勤講師、東京総合写真専門学校理事長。

(2) 須田一政 × 鈴木理策 × 丹羽晴美（東京都写真美術館学芸員）

日時：9月4日（木）19:30 - 21:00

会場：代官山蔦屋1号館2階イベントスペース

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair、代官山 蔦屋書店

料金：500円～（フリーパス制度あり）

要事前申込。

お申し込み方法・詳細：<http://tsite.jp/daikanyama/event/004161.html>

スピーカー・プロフィール：



須田一政（写真家）

1940年東京都生まれ。67年より70年まで寺山修司が主宰する演劇実験室「天井桟敷」の専属カメラマンとなる。76年、『風姿花伝』にて日本写真協会新人賞を受賞し、一躍注目を浴びる。85年、写真展「日常の断片」等により第一回東川賞国内作家賞受賞。その後も継続的に活動を続け、97年、写真集『人間の記憶』（クレオ）による第16回土門拳賞など多数受賞。2013年、東京都写真美術館にて個展「風の片」を開催した。



鈴木理策（写真家）

1963年和歌山県生まれ。87年東京総合写真専門学校研究科卒業。98年、故郷・熊野の御燈祭りへの旅程をシークエンスの手法で構成した写真集『KUMANO』（光琳社出版）を出版。2000年、青森・恐山と熊野の花窟神社の祭礼を撮影した『PILES OF TIME』（同前）で第25回木村伊兵衛写真賞を受賞。近著に『White』（edition nord、2012年）、『Atelier of Cézanne』（Nazraeli Press、2013年）等。2015年2月より丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で個展開催予定。

丹羽晴美（東京都写真美術館学芸員）

東京都生まれ。専門は写真を中心とするメディア論。展覧会「須田一政 風の片」（2013年）、「写真の飛躍」（2011年）、「鈴木理策 熊野、雪、桜」（2007年）他多数。法政大学非常勤講師、学習院女子大学非常勤講師。2001年度読売新聞社美術館連絡協議会図録論文奨励賞（「馬へのオマージュ」）、2009年度読売新聞社美術館連絡協議会自主展部門優秀論文賞（「やなぎみわ マイ・グランドマザーズ」）。

No Image

(3) 石内都 × Amanda Maddox (J. ポール・ゲティ美術館 写真部門アシスタント・キュレーター)

日時：9月4日(木) 21:10 - 22:40

会場：代官山蔦屋1号館2階イベントスペース

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair、代官山蔦屋書店

料金：500円～(フリーパス制度あり)

要事前申込。

お申し込み方法・詳細：<http://tsite.jp/daikanyama/event/004161.html>

スピーカー・プロフィール：



石内都 (写真家)

桐生市生まれ。横須賀で育つ。『APARTMENT』で第4回木村伊兵衛写真賞受賞。「Mother's」シリーズ、「ひろしま」シリーズを発表。2005年第51回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表。2013年紫綬褒章受賞、「Frida by Ishiuchi」をメキシコ・RMより出版。2014年ハッセルブラッド国際写真賞を受賞。「From ひろしま」を求龍堂より出版。

©Ito Kaori



Amanda Maddox アマンダ・マドックス (J. ポール・ゲティ美術館 写真部門アシスタント・キュレーター)

アメリカ西海岸屈指の美術館として知られるJ. ポール・ゲティ美術館 (J. Paul Getty Museum) のアシスタント・キュレーター。専門は20世紀のアメリカドキュメンタリー写真。20世紀において、全く違うタイプの作品を制作したが、共に重要な写真家、濱谷浩と山本悍右の写真の方向性とスタイルを探る展覧会「Japan's Modern Divide: The Photographs of Hiroshi Hamaya and Kansuke Yamamoto」を同美術館シニアキュレーターのジュディス・ケラーと共に企画、2013年に開催。

(4) Lucille Reyboz × 仲西祐介 (KYOTOGRAPHIE 国際写真フェスティバル 企画/代表)

日時：9月5日(金) 13:30 - 15:00

会場：代官山 HILLSIDE TERRACE café

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair

料金：500円(ワンドリンク付き)

要事前申込。トークのタイトル、お名前、参加人数、連絡先(メール、電話番号)を明記の上、event@hillside terracephotofair.com までお申し込みください。

スピーカー・プロフィール：



Lucille Reyboz ルシル・レイボーズ (KYOTOGRAPHIE 国際写真フェスティバル 企画/代表)

1973年生まれ。幼少期をマリ共和国バマコで過ごす。10代の頃にセネガルへの旅を通じて写真と出会う。主にポートレイトの分野において活動を行い、ブルーノートなどのレコードカバーの撮影を手掛けてきた。トーゴのタンベルマ族をテーマにした『ソース(泉, Source)』などの写真集を刊行。2008年パリフォトにて日本をテーマにしたシリーズ「Chroniques Japonaises」を展示。2011年1月にはシャネル・ネクサス・ホールにて個展を開催。現在は東京をベースに活動。

仲西祐介 (KYOTOGRAPHIE 国際写真フェスティバル 企画/代表)

1968年生まれ。照明家。世界中を旅し、その印象に残された光のイメージをあらゆる対象に光と影で表現している。映画、ステージ、インスタレーション、インテリアなど、様々なフィールドで照明演出を手がける。アート作品として「eatable lights」を制作、また原美術館、School Gallery(パリ)、「Nuits Blanches」(京都)でライティング・インスタレーションを発表する。京都在住。

(5) 森山大道 × 清水穰 (写真評論家)

日時：9月5日(金) 18:30 - 20:00

会場：代官山蔦屋3号館2階音楽フロア

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair、代官山 蔦屋書店

料金：500円～(フリーパス制度あり)

要事前申込。

お申し込み方法・詳細：<http://tsite.jp/daikanyama/event/004161.html>

スピーカー・プロフィール：



森山大道 (写真家)

1938年大阪府生まれ。グラフィックデザイナーを経て、写真家岩宮武二および細江英公のアシスタントとなり、1964年に独立。1968年『につぼん劇場写真帖』(室町書房)、1972年『写真よさようなら』(写真評論社)を出版。荒れた粒子、焦点がブレた不鮮明な画面、ノーファインダーによる傾いた構図を特徴とした、既存の写真制度を覆すラディカルな表現で写真界を震撼させた。その評価は内外の美術界に及び、「William Klein + Daido Moriyama」テート・モダン(ロンドン、2012年)等世界各国で大規模な展覧会が開催されている。国際写真センターInfinity Award 功労賞(ニューヨーク、2012年)、ドイツ写真協会・文化功労賞(2004年)、日本写真協会作家賞(2004年)、第44回毎日芸術賞(2003年)、日本写真批評家協会新人賞(1967年)を受賞。



清水穰 (写真評論家)

定期的に『BT 美術手帖』『ART iT』といった美術雑誌、写真集や画集、美術館カタログに批評を寄稿している。主な著書に『プルラモン』『日々是写真』『写真と日々』(すべて現代思潮新社)など。現在、同志社大学教授。

© Yosuke Takeda

(6) 横田大輔 × 川島崇志 × 赤石隆明 × 野崎歓 (フランス文学者、翻訳家、映画・文芸評論) × 後藤繁雄 (G/P gallery)

9月5日(金) 20:15 - 21:45

会場：代官山蔦屋3号館2階音楽フロア

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair、代官山 蔦屋書店

料金：500円～(フリーパス制度あり)

要事前申込。

お申し込み方法・詳細：<http://tsite.jp/daikanyama/event/004161.html>

スピーカー・プロフィール：



横田大輔 (写真家)

1983年、埼玉県生まれ。日本写真芸術専門学校卒業。2008年、キャノン新世紀佳作、エプソンカラーイメージコンテスト写真部門特選。2010年、第2回写真「1_WALL」展グランプリ。国内外での個展、グループ展の他、Unseen Photo FairやParis Photoなど海外のアートフェアにも参加。2013年2月にG/P galleryにて個展「site / cloud」を開催、同名の写真集を出版。2013年9月アムステルダムで開催されたUnseen Photo Fairにおいて「The Outset | Unseen Exhibition Fund」初の受賞者となり、2014年5月にはFoam美術館にて初の海外での個展が開催された。



川島崇志 (写真家)

1985年、宮城県生まれ。2011年東京工芸大学大学院芸術学研究科メディアアート専攻写真領域修了。2011年アートアワード東京・審査員賞、TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2012・グランプリ等受賞歴多数。2013年3月、東京・G/P galleryにて個展『New coast, and a fragment over a woman (新しい岸、女を巡る断片)』を開催し、限定写真集『New coast, and a fragment over a woman』を出版。



赤石隆明 (写真家)

1985年、静岡生まれ。東京造形大学大学院造形研究科美術研究領域卒業。主な展示に「Hyperplasia」(2010、g3/gallery、東京)、「camaboco」(2010、東京造形大学、東京)「Carpet and Photograph」(2009、3番 gallery、東京)。受賞歴に「TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD」(2011、3331 Arts Chiyoda、東京)、「キヤノン写真新世紀」(2010、東京都写真美術館、東京)にて佳作(佐内正史選)。2013年9月、G/P galleryにて個展を開催し、同名写真集『UNBROKEN ROOM』を出版。2014年には木村伊兵衛賞にノミネートされるなど、注目を集めている。



野崎 隼 (フランス文学者、翻訳家、映画・文芸評論)

1959年新潟県生まれ。東京大学文学部仏文科卒業。同大学院中途退学。著書に『ジャン・ルノワール越境する映画』(サントリー学芸賞受賞、青土社、2001年)、『谷崎潤一郎と異国の言語』(人文書院、2003年)、『赤ちゃん教育』(講談社エッセイ賞受賞、青土社、2005年)、『異邦の香りーネルヴァル『東方紀行』論』(2010年講談社、読売文学賞受賞)、『フランス文学と愛』(講談社、2013年)、『翻訳教育』(河出書房新社、2014年)など。現在、東京大学大学院人文社会系研究科教授。

© Sadato Ishizuka



後藤繁雄 (編集者、アートプロデューサー、京都造形芸術大学教授)

書籍編集、インタビュー、広告制作・商品開発・展覧会企画など、ジャンルを超えて幅広く活動。「独特編集」をモットーに写真集『TOKYO LOVE』(ナン・ゴールドティン×荒木経惟)をはじめ、蜷川実花、篠山紀信から若手写真家まで、また坂本龍一などのアートブックも数多く制作。2002年京都造形芸術大学教授に就任。2003年にASP学科(アートプロデュース)を立ち上げ、学科長に就任(2008年まで)。また海外のアートフェアの調査を毎年行うとともに、G/Pギャラリーなどを立ち上げ積極的に海外のアートフェアにも出展(2014年、アムステルダムのフォトフェア UNSEENにて、港千尋と共同キュレーションで展覧会『anima on photo』を開催)。また、篠山紀信の全国大型美術館巡回展のプロデュースも担当している。また、aatmを小山登美夫とともにプロデュースし、日本の若手アーティストの発掘・育成を自らの使命として、精力的に行っている。

(7) Beat Streuli × 倉石信乃 (詩人、批評家)

日時：9月6日(土) 13:30 - 15:00

会場：代官山 HILLSIDE TERRACE café

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair

料金：500円(ワンドリンク付き)

要事前申込。トークのタイトル、お名前、参加人数、連絡先(メール、電話番号)を明記の上、event@hillside terracephotofair.com までお申し込みください。

スピーカー・プロフィール：



Beat Streuli ベアト・ストロイリ (写真家)

1957年スイス、アルトドルフ生まれ。デュッセルドルフを拠点に、NY、東京、シドニーなど、世界の様々な都市の路上を歩き交う人々をモチーフに写真や映像作品を制作している。1993年にニューヨーク近代美術館(ニューヨーク)でのNew Photographyに選ばれ、シドニービエンナーレ、光州ビエンナーレ、シンガポールビエンナーレなど多くのビエンナーレに参加する一方で、2002年に行われたパレ・ド・トーキョー(パリ)のグランドオープンでは大規模なインスタレーション作品を展示。近年では2012年にIkon Gallery(バーミンガム)でも個展が開催された。



倉石信乃 (詩人、批評家)

1963年生まれ。明治大学大学院理工学研究科デジタルコンテンツ系教授。1988～2007年横浜美術館学芸員として、「マン・レイ展」「ロバート・フランク展」「菅木志雄展」「中平卓馬展」「李禹煥展」などを担当。主な著書に『スナップショット—写真の輝き』(大修館書店、2011年日本写真協会学芸賞)、『反写真論』(オシリス)など。2010-12年仲里効と『沖縄写真家シリーズ「琉球烈像」』(全9巻、未来社)を監修。2001年シアターカンパニーARICA創立に参加、コンセプト・テキストを担当。

(8) 北野謙 × 村越としや × 新井卓 × 増田玲 (東京国立近代美術館主任研究員)

9月6日(土) 18:30 - 20:00

会場：代官山 蔦屋2号館1階建築フロア(3号館2階音楽フロアから変更になりました。)

主催：HILLSIDE TERRACE Photo Fair、代官山 蔦屋書店

料金：500円～(フリーパス制度あり)

要事前申込。

お申し込み方法・詳細：<http://tsite.jp/daikanyama/event/004161.html>

スピーカー・プロフィール：



北野謙 (写真家)

1968年東京都生まれ。91年日本大学生産工学部卒業。作品に「our face」、「溶游する都市」、「one day」など。主な個展に「our face project: Asia」(MEM、2011年)、主なグループ展に「写真の現在3—臨界をめぐる6つの試論」(東京国立近代美術館、2006年)、「現代写真の母型シリーズ：写真ゲーム」展(川崎市市民ミュージアム、2008年)、「日本の新進作家展 vol.10 写真の飛躍」展(東京都写真美術館、2011年)、など。2004年写真の会賞、2007年日本写真協会新人賞、2011年第14回岡本太郎現代芸術賞特別賞、第27回東川賞新人賞受賞など。



村越としや (写真家)

1980年福島県生まれ。2003年日本写真芸術専門学校卒業。2009年、東京・清澄白河に「TAP」を設立。2011年、日本写真協会賞新人賞受賞。2012年に写真集出版レーベル<plump WorM factory>を設立。写真集に、『あめふり』(蒼穹舎、2006年)、『草をふむ音』(蒼穹舎、2008年)、『浮雲』(TAP、2009年)、『雪を見ていた』(TAP、2010年)、『土の匂いと』(TAP、2011年)、『大きな石とおオカミ』(plump WorM factory、2012年)がある。個展やグループ展を多数開催し、2014年9月、「火の粉は風に舞い上がる」(武蔵野市立吉祥寺美術館)を開催予定。



新井卓 (写真家)

1978年神奈川県生まれ。東京総合写真専門学校卒。写真黎明期の技法・ダゲレオタイプ(銀板写真)を作品制作に用いる、現代において数少ない写真家のひとり。主なグループ展に「「写真の現在 4 そのときの光、そのさきの風」(東京国立近代美術館、2013年)。個展に「福島からひろがる視線 2 新井卓銀板写真展」(原爆の図丸木美術館、2012年)、「夜々の鏡/Mirrors in Our Nights」(川崎市市民ミュージアム、2011年)、「鏡ごしのランデブー/Rendezvous on Mirror」(横浜美術館、2006年)など。2013年、ニューヨーク、The Center for Alternative Photography で開催された Image Object Exhibit にて大賞受賞。



増田玲 (東京国立近代美術館主任研究員)

1968年神戸市生まれ。1992年筑波大学大学院地域研究研究科修了。同年より東京国立近代美術館に勤務。近年担当した主な展覧会に「鈴木清写真展 百の階梯、千の来歴」(2010年)、「写真の現在 4: そのときの光、そのさきの風」(2012年)、「ジョセフ・クーデルカ展」(2013年)など。

(9) 濱中敦史 (twelvebooks) × 中島佑介 (POST) × 石井孝之 (タカ・イシイギャラリー)

9月6日(土) 20:15 - 21:45

会場: 代官山蔦屋2号館1階建築フロア(3号館2階音楽フロアから変更になりました。)

主催: HILLSIDE TERRACE Photo Fair、代官山蔦屋書店

料金: 500円~(フリーパス制度あり)

要事前申込。

お申し込み方法・詳細: <http://tsite.jp/daikanyama/event/004161.html>

スピーカー・プロフィール:



濱中敦史 (twelvebooks 代表)

1984年三重県生まれ。中央大学商学部卒業。海外留学を経て、2010年に twelvebooks を設立。ヨーロッパを中心に、従来の流通システムでは国内で認知されることが難しかった海外出版社の国内流通を数多く手掛ける他、ブックセレクションや展覧会の企画など、写真メディアを軸に多面的な活動を行う。



中島佑介 (limArt / POST 代表)

1981年長野県生まれ。早稲田大学商学部卒業。2002年に limArt をスタート。2011年には出版社という括りで定期的に本が全て入れ代わるブックショップ「POST」を恵比寿にオープン。常に入れ替わる本棚に加え、ドイツ STEIDL 社のメインラインナップが常に並ぶオフィシャルブックショップとなっている。現在は POST のディレクターとして、ブックセレクトや展覧会の企画、書籍の出版、その他 Dover Street Market のブックシェルフコーディネートや IMA Concept Store の MD などを手がける。



石井孝之 (ギャラリー代表)

1963年東京都生まれ。94年東京に「タカ・イシイギャラリー」を開廊。荒木経惟、森山大道、東松照明など日本を代表する写真家や、荒川医、木村友紀など近年評価が高まりつつある日本人作家や著名な海外作家の作品を扱う。現在東京に3箇所のスペースを擁し、2014年6月にパリに新スペースを開廊。

関連イベント：ワークショップ

伝統的なプリント技術であるコロタイプ、プラチナプリントから、定番のゼラチンシルバープリントまで、高度なプリント・プロセスを体験することができるワークショップを会期中に開催。

(1) コロタイププリント

京都の老舗美術印刷会社、便利堂の技術者指導のもとコロタイププリントを体験できるワークショップ

日時：9月5日（金）14:00 - 17:00
会場：IMA CONCEPT STORE（六本木）
参加費：5,000 円
事前提出物：作品写真1点（データ、印画紙）
定員：10名
お申し込みを締め切りました。

(2) プラチナプリント

アマナサルトのプリンティング・ディレクター、久保元幸氏の指導のもと、プラチナプリント作成を一日体験できるワークショップ

日時：9月6日（土）13:00 - 18:00
会場：amanasalto（港区海岸）
定員：12名
参加費：12,000 円
準備物：エプロン、タオル、筆記用具。
事前提出物：モノクロ画像
提出期限 8月31日（日）
お申し込みを締め切りました。

(3) ゼラチンシルバープリント

荒木経惟、森山大道のプリントを手がける写真制作会社、写真弘社のプリンターの指導のもと、ゼラチンシルバープリントを体験できるワークショップ

日時：9月6日（土）13:00 - 16:00
会場：写真弘社モノクロラボ（神田）
定員：8名
参加費：5,000 円（材料費込）
準備物：フィルム持参（写真弘社から提供されるフィルムを使用することも可能）
事前申し込み：要。ワークショップタイトル、お名前、連絡先（メール、電話番号）を明記の上、
event@hillside terracephotofair.com までお申し込みください。詳細をご案内します。
申し込み締め切り：5日（金）13:00

関連企画：ポップアップ・ブックストア STEIDL + MACK

1967年の創業以来、企画から印刷、製本そして出版までを自社で一貫して手掛けることで、総合的に完成度の高い造本を実現し、世界中の写真ファンを魅了し続けているドイツの出版社「STEIDL（シュタインデル）」、そしてその「STEIDL」で20年間に渡って写真集部門のディレクターを務めた経験をもつMichael Mack（マイケル・マック）によって2010年に設立されたイギリスの出版社「MACK（マック）」。国際的に高く評価される両出版社の世界観が凝縮されたポップアップ・ブックストア。それぞれの国内における流通・企画を一任されているオフィシャル・パートナー、「POST」（STEIDL担当）と「twelvebooks」（MACK担当）による共同企画



日時：9月4日（木）～7日（日） 11:00 - 19:00
（最終日は 11:00 - 17:00）

会場：gallery ON THE HILL（代官山ヒルサイドフォーラム内）

STEIDL : www.steidl.de

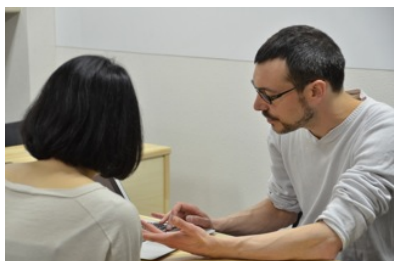
MACK : www.mackbooks.co.uk

POST : post-books.jp

twelvebooks : www.twelve-books.com

連携企画：ポートフォリオ・レビュー（終了しました）

国内外の第一線で活躍するキュレーター、ギャラリスト、評論家などによるポートフォリオ・レビュー。



名称：第一回 東京インターナショナル・ポートフォリオ・レビュー

主催：一般社団法人 TOKYO INSTITUTE OF PHOTOGRAPHY

日時：2014年8月22日（金）、23日（土） 10:00 - 18:00

会場：Studio Lotus（東京都港区海岸 1-14-24 鈴江第3ビル 4階）

広報お問い合わせ

HILLSIDE TERRACE Photo Fair 事務局 市川 / 小出

Email: press@hillside terracephotofair.com

Tel.: 03-5456-9234 / 090-7947-1289

その他のお問い合わせ

一般社団法人日本芸術写真協会

Email: info@fapa.jp

Tel.: 03-5646-6050（TIG 岡本） / 03-3455-7827（P.G.I. 高橋）

〒106-0032 東京都港区六本木 6-6-9 ピラミデビル 2F（タカ・イシイギャラリーモダン内）

公式ウェブサイト: hillside terracephotofair.com

Facebook: www.facebook.com/hillside terracephotofair

Twitter: twitter.com/HSTPhotofair